

温泉山(雲仙) UNZENZAN

史跡・歴史巡り



雲仙の『歴史・自然』音声解説はQRコードをスマホで撮影！ ↑

① 雲仙山満明寺・釈迦大仏 うんぜんざんまんみょうじ・しゃかだいぶつ



明治30年出火のため、当時の釈迦堂、護摩堂などは焼失。檀家を中心に浄財を募り、明治43年(1910)大仏建立に着手、大正6年(1917)に開眼された。高さ約5mで奈良の東大寺(盧遮那仏座像)の3分の1ほど。温泉山は比叡山、高野山とともに天下の三山と称され、その繁栄ぶりは、高野山をしのぐ勢いで、雲仙一帯は霊場として世の崇敬を集めた、いわばメッカ的な地位であった。しかし、キリスト教が盛んな頃(16世紀頃)キリシタンによる襲撃が相次ぎ、満明寺は焼失した。復興されたのは、寛永17年(1640)に、遠州浜松城主高力忠房公が島原藩主として着任し温泉山一乗院として再興した。

② 温泉山石書法華塔碑銘 うんぜんざんせきしょほうとうひめい



温泉山満明寺の境内入口の左側に設置されている。温泉山の歴史を語る貴重な石盤。現在の「雲仙山満明寺」は昭和55年、南串の温泉山一乗院から独立。境内には、右肩の欠けた石碑が建っている。「伊勢渡海群恵純謹建 皇和文化10年(1813)11月」とある。この雲仙岳は渡海(大陸と行き来をする)時の目標の山で、名は「日本山」と呼び、天皇からお願いで僧行基が開いた由緒ある温泉山」ということで、これを称えている石碑である。

③ 行基の墓(伝承) ぎょうきのはか(でんしょう)



かつては、原生沼から温泉神社への参道途中の寺の馬場にあったが、現在は満明寺境内に移転されている。その後方には、温泉山復興に尽力された植木元太郎の歌碑がある。大正元年(701年)温泉山は、天下の霊山として、僧行基が文武天皇の勅願により、開山された。温泉山縁起書に記されている。この五輪塔が伝承行基の墓と言われている。半島内では、フロイスの「日本史」に記載のとおり16世紀頃、多くの寺社仏閣・仏像・仏塔がキリスト教徒に破壊された。温泉山(雲仙)において、ほぼ全形が残っている貴重な史跡である。

④ 温泉山八十八カ所巡り うんぜんざんはちじゅうはつかしよめぐり



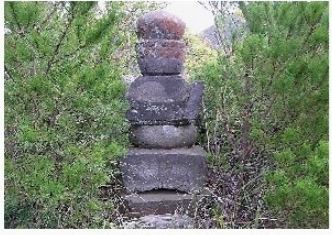
温泉山で巡る簡易の八十八カ所巡りになっている。満明寺境内から始まり、境内上の公園を通り約15分程で、八十八カ所巡りを体感できる。昭和44年「雲仙八十八カ所霊場復元趣意書」によると、「大師が入唐されたとき密教の釈尊遺跡八塔の霊地を巡拝され、その土を持ち帰りの十倍の八十八の数の砂を敷いて伽藍を建立し四国八十八カ所の霊場とされた」。この雲仙八十八カ所の霊場を遍歴すれば、今も尚、大師は生きて喜び迎えて下さり、色々の悩みを取り除いて下さると、「同行二人」の奇跡信じて雲仙道の道を歩いてみよう。

⑤ 行基像 ぎょうきざう



僧侶の活動を僧尼令(そうにりょう)により朝廷が定め、仏教の民衆への布教活動を禁じた時代に、行基は、禁を破り民衆や豪族層など問わず広く仏法の教えを説き人々より篤く崇敬された。(行基の師は、653年入唐し玄奘三蔵から法相宗を学んだ道昭) また、道場や寺院を多く建立しただけでなく、溜池15窪、溝と堀9筋、架橋6所を、庶民・困窮者のための布施屋9ヶ所等の設立など数々の社会貢献事業を各地で成し遂げた。雲仙の他にも、日本各地に行基開山伝承の温泉地が多くある。(有馬温泉、草津温泉、山中温泉…)

⑥ 龍造寺隆信五輪塔 りゅうぞうじかのぶごりんとう



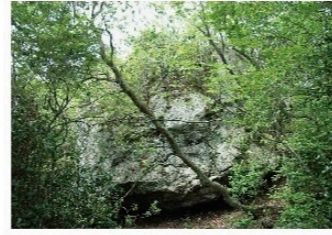
満明寺境内から八十八箇所めぐりへの参道登った所ある公園に、龍造寺隆信のお墓といわれている五輪塔がある。天正12年(1584)島原地方を所領していた有馬氏を佐賀の龍造寺が攻めたが、鹿兒島の島津氏の援軍を受け、有馬氏が迎え討ち、龍造寺軍は敗退し龍造寺隆信は戦死した。(沖田畷の戦い)晴信は、温泉山の所領をイエズス会への寄進を約束していたが、島津氏の援軍が勝利の要因であり、雲仙岳再興を願う島津氏の意向を考えれば、晴信はこの密約を実現させることは不可能であった。(フロイス「日本史」)

⑦ 温泉神社(四面宮) うんぜんじんじや(しめんぐう)



温泉山(雲仙)を中心に、今も尚、半島には温泉神社(四面社)が17カ所存在し、温泉山繁栄し頃の様子を知ることができる。温泉神社は、満明寺と同じ大宝元年の創立と言われ、四面宮として古事記に記されている。四面宮とは九州の4神のことで雲仙だけでなく、九州の守護神であったと言われ、明治時代は、筑紫国魂神社、大正5年に現在の温泉神社と改められた。13世紀初頭の元寇の時、元軍に一身三面の勇士があつて幕府軍を悩ましたが、忽然と一身四面の勇姿(神)が現れこれを撃退したという。これが温泉神だった。

⑧ 鬼石 おにいし



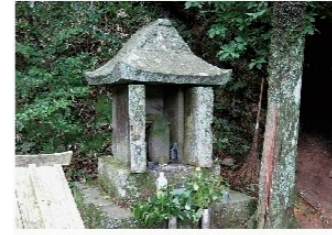
人通りの少ない旧八万地獄の歩道から、すこし外れた場所に巨大な岩「鬼石」がある。息を止めて、一周できると願い事が叶うとか…。東西南北を、十二干支の卯(東)、酉(西)、午(南)、子(北)で表わし、小地獄は木指名、別所はミョウパン浜と表記された、古い雲仙の絵図面に、鬼石の場所が明記されており、温泉山縁起にも、「此の山ノ本主、歎羅は、四面ノ大鬼ナリ。行基菩薩二過ヒ奉リ、種々ノ問答アリ。又、鬼アリ、男鬼ノ名ハ、空仙鬼、女鬼ノ名ハ、難林王ナリ。此の鬼ヲ加持スレバ、即チ鬼石トナル」と記されている。

⑨ 弘法大師空海座像 こうぼうだいしこうかいざざう



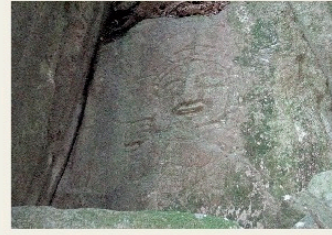
空海伝承がある島原半島、温泉山には、右手に五輪塔をお持ちの空海像が点在している。地獄遊歩道に祀られている空海像は、一度首が跳ねられ、後にセメントで取り付けられている。このような悲惨な空海座像や、首なしの地藏・仏像が島原半島、雲仙周辺では数多く見られる。キリスト教が半島内に広まった頃、一神教である、彼らにとって仏教は敵対する悪魔の宗教であった。○悪魔に直接に奉仕するペテン師であり、魔術師である山伏。○直接に悪魔の祭祀に携わっている残忍で恐るべき連中である。また、半島内には隠れキリシタンの印を持った多くの仏像も存在している。

⑩ 木花開耶姫神社 このはなさくやひめじんじや



原生沼の周回歩道から参道が始まり、約10分程登ると、木花開耶姫神社へ辿り着く。近くには、リッパな陰陽石も祀ってある。木花咲耶姫を祀っている神社は日本全国にあり、火中出産の説話から火の神として祀られている。ただし、浅間神社の総本山である富士山本宮浅間大社の社伝では、噴火を繰り返す富士山を鎮めるために水神として祀られている。また、「日本書紀」によれば木花咲耶姫は、子授け、安産の神、子育ての神、酒の神として祀られている。子供の幸せを願って参る方も多し。

⑪ 大黒天磨崖仏 だいこくてんまがいぶつ



温泉街から千々石方面への県道128号へ進むと「オシドリ池」(貯水ダム)がある。その周回歩道の途中に磨崖仏大黒天がある。大黒天は、密教の伝来とともに日本に伝わり、大国主命と神仏習合してできた神で七福神の一柱としても知られている。最澄が比叡山延暦寺の台所の守護神として祀ったのが始まりと云われている。巨岩のさげめの奥に大黒天が彫り込んでいる。俵に乗って、右手に小づちを持った像は高さ2.5mその上には見上げるほどの巨石が積み重なっている。商売の神様として信仰も厚く、その巨岩は迫力があり、参拝者も多い。

⑫ 三鈷の松 さんこのまつ



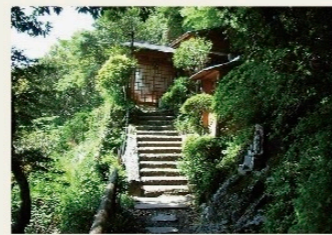
大師が唐での修業を終え帰国の折「日本での修業地を示し給え」と「三鈷杵」を空に向けて投げになり、帰国後に高野山の松(葉が3本)に止まっていた。小地獄から一切経堂への参道途中に葉が3本ある珍しい「三鈷の松」がある。空海伝承の松で高野山では、お守りとして販売されている。空海伝承がある寺院では三鈷の松が見られる場所もあるが、満明時も真言宗であり、三鈷の松がこの地にあるのは高野山との修行僧の身体の保護を願って移植したのではないかと云われている。現在もお守りとして人気があり、訪問者が多い。

⑬ 一切経の滝 いっさいぎょうのたき



小地獄から緩やかな参道を美しい渓流に沿って約15分下って行くと、巨木が多く見られる深山幽谷な場所に一切経の滝がある。大宝元年(701)行基菩薩は天草から温泉岳の噴煙を見て、彼の地を求法の地と定められ、やがて口之津に渡り、有家を経て、温泉山の一切経の地に着かれ、ここに堂を建てて仏道修行の道場とされた。一切経とは、すべての仏典をさし、行基が経文をここから流したともいわれている。ここから下流は別名「小耶馬溪」と呼ばれ美しい渓谷美がつけられている。

⑭ 知恩堂 ちおんどう



一切経堂から約20分山道を登って行き、分岐点から左折すると大きな岩壁が見えてくる。少し進むと巨石にトンネルがあり、抜けると知恩堂に着く。今の知恩堂は、中興の祖である豊田カヨ尼僧である。靈感によって開山されたとも云われ、当時、目のくらむような絶壁の途中の畳三枚ぐらいの広さに、むしろ作りで雨露をしのぎ、修行され靈感を授けられ、衆生済度に尽くされたという。昭和44年、88才で逝去。この巨石などのくぐり、「胎内めぐり」と云って、多くの霊場に見られ、仏の胎内に入り、身を清め、心の安心を願うものである。

⑮ 七日廻りの石 なのかまわりのいし



白雲の池(正徳二年(1712)七日廻石の上方に溜池が造られ「七日廻り石池」と呼ばれた)入り口より、札の原方面へ30m程行った右手の山林の川沿いに「七日廻りの巨石」が人知れずある。信仰の地であった温泉山は、女人禁制でもあった。たとえ母と子であっても、その掟は厳しかった。ある日、僧坊にあづけられた我が子に会いたい一心から、幼児をつれた母親が禁制を破ってこの岩まで来て休んでいたところ、幼児がいなくなった。母親は狂ったように、七日夜この石の周りを探したが、そのうち息絶えた…という悲しい話伝わっている。

⑯ 片足鳥居 かたあしとりい



札ノ原バス停近くにある片足鳥居は、かつて温泉神社が「四面社」と呼ばれていた頃の第一鳥居で、この先は女人禁制であった。文政10年(1827)9月12日北有馬の八木与一兵衛が建立した鳥居。文政年間(1818~1831)の山崩の際洪水により半分が押し流された記録があるが、道路の拡張や用地造成などで三分の二ほど埋まった形になっているのを掘り替えたのである。鳥居は、ヌキの一部をつけた左側だけが、柱は高さ4.7米、円周2.3m、重さ約7吨の自然石でカサ石の一部と「四面社」と刻んだ石額も保存されている。

⑰ 古跡手水鉢 こせきちようずばち



野営場管理棟前の広場から野営場園地への途中に巨木が立ち並んでいる。(行基伝承がある一切経滝への参道にある巨木と同じ程の高さ・大きさ)その巨木の入口付近に岩で造られた「手水鉢」がある。この先の歩道は札の原へ通じ、昔からの歩道があり、片足鳥居がある場所へ通じている。また、池の周辺に、霊木「オガタノキ」の巨木が1本、現存しており、かつて、雲仙が霊山として繁栄の頃、この地にも寺社が存在したと推測される。

温泉山(雲仙)史跡・歴史散策マップ

クリーン雲仙、来たときよりも美しく、ゴミは持ち帰ろう!



A地点(雲仙お山の情報館)からの距離(所要時間)消費カロリー

- ① 雲仙山満明寺・釈迦大仏
400m(7分)21kcal
- ② 温泉山石書法華塔碑銘
400m(7分)21kcal
- ③ 行基の墓
410m(8分)24kcal
- ④ 温泉山八十八カ所巡り
450m(8分)31kcal
- ⑤ 行基像
480m(8分)28kcal
- ⑥ 龍造寺隆信五輪塔
480m(8分)28kcal
- ⑦ 温泉神社(四面宮)
370m(8分)21kcal
- ⑧ 鬼石
120m(5分)10kcal
- ⑨ 弘法大師空海座像
340m(8分)20kcal
- ⑩ 木花開耶姫神社
530m(15分)32kcal
- ⑪ 大黒天磨崖仏
2,150m(40分)125kcal
- ⑫ 三鈷の松
1,600m(30分)110kcal
- ⑬ 一切経の滝
1,900m(40分)120kcal
- ⑭ 知恩堂
2,250m(60分)250kcal
- ⑮ 七日廻りの石
710m(20分)50kcal
- ⑯ 片足鳥居
1,950m(25分)100kcal
- ⑰ 古跡手水鉢
710m(18分)50kcal

- A** 雲仙お山の情報館 TEL0957-73-3636 **FREE WiFi**
雲仙の自然・歴史・温泉・火山などの無料の案内所
開館時間：9時～17時 休館日：毎週木曜日
☆自然・歴史・登山等パンフレット配布
- B** 雲仙お山の情報館・別館(無人) **FREE WiFi**
雲仙歴史資料館：歴史資料多冊子・子供マンガコーナー
開館時間：9時～17時 通年開館
ネットワークデスク(コンセント有)
畳の休憩スペースにて飲食可(但し、ゴミ等は持ち帰り)
☆自然・歴史・登山等パンフレット配布
- C** 雲仙観光局 TEL0957-73-3639
観光案内、雲仙旅館・ホテル宿泊のご案内
白雲の池野営場の案内・予約 **FREE WiFi**

- 公共浴場**
- D** 新湯温泉館
TEL0957-73-3233
- E** 雲仙よか湯
TEL0957-73-2003
- F** 湯の里共同浴場
TEL080-5286-2576
- G** ちょこっとよか湯
TEL0957-73-2004
- H** 小地獄温泉館
TEL0957-73-3273

- 足湯スポット**
・足湯広場
・グリーンテラス雲仙庭

温泉山(雲仙)弘法大師空海：巡礼祈願11箇所

温泉山(雲仙・日本百霊峰)史跡・歴史巡り
雲仙は、かつて「温泉山」と書き「うんぜんざん」と呼ばれ、比叡山や高野山より古い歴史がある山岳修験・女人禁制の霊山でした。島原半島には、当時繁栄していた仏教文化の史跡や伝承が数多く残っています。その内、雲仙周辺の史跡を紹介します。このトレイルマップを片手に散策され、温泉山の奥深い歴史をお楽しみ下さい。



★ 空海座像・史跡詳細解説・位置は
← QRコードをスマホで撮影!

マップ片手に、心地よい自然の中を歩いてみよう!

雲仙最新情報はインターネット検索：雲仙お山の情報館
DATA Creator West by Mac 250212